

秘密の花園

朗読劇団朗読GENが初めて

韓国現代文学に挑戦!

韓国現代史に寄りそいながら

描く家族の再生物語

비밀의
원



2012年2月13日(月) 19:00開演 (終演予定 20:30)

会場 一心寺シアター倶楽



韓国現代史年表

植民地期	1910	日韓併合
	1919	3・1 独立運動
	1939	国民徴用令(「強制連行」始まる)
	1940	創氏改名実施
	1941	太平洋戦争始まる
	1943	カイロ宣言
	1945	大日本帝国敗戦
1945	8月	朝鮮建国準備委員会発足
1948	8月	大韓民国樹立、初代大統領に李承晩
	9月	朝鮮人民共和国樹立宣布
1950	6月	朝鮮戦争勃発
	9月	金大中、人民共和軍に参加(北朝鮮軍に上陸)
1953	7月	休戦協定成立
1961	5月	朴正熙によるクーデターにより軍事政權誕生
1963	10月	朴正熙、大統領に当選
1965	6月	日韓基本条約調印
1967	2月	金大中、野党新民党のスポークスマンに選任
	5月	朴正熙再選
1969	6月	学生による3選改憲反対デモ
1971	4月	朴正熙3選
1972	10月	全国に非常戒厳令(10月維新)
	10月	金大中、東京で維新反対声明
	12月	維新憲法公布
1973	8月	金大中、拉致事件
1973	12月	改憲請願100万人署名運動
1975	4月	ベトナム戦争終結
1978	12月	朴大統領就任、間接選挙により4選
1979	10月	朴大統領射殺
	12月	全斗煥、クーデターで実権握る
1980	5月	金大中戒厳令違反として逮捕
	5月	光州で反政府デモ
	9月	金大中に死刑判決
1982	3月	金大中、懲役20年に減刑
1987	1月	朴鐘哲拷問致死事件
1987	11月	大韓航空機爆破事件
1988	1月	光州事件、民主化努力と認められる
	9月	ソウル5輪開催
1995	12月	5.18 特別法成立、全斗煥拘束
1998	2月	金大中第15代大統領就任

注：カイロ宣言・・・連合国首脳会議で出された宣言、朝鮮半島について「朝鮮人民の奴隷状態に留意し、しかるべき時期に朝鮮を自由かつ独立のものとする決意である。」と記されている。

2012年7月7日(土)・8日(日)

第10回 記念公演


詳細は追ってお知らせします

お問い合わせ、チケットのご予約は

TEL&FAX / 0742-48-8688(秋山)
メール / roudokugen@yahoo.co.jp
ホームページ / 朗読劇団 朗読GEN
http://r-gen.jimdo.com

朗読 GEN に入って
一緒に朗読劇を楽しみませんか!

文学を立体的に立ち上げて、人物が動き出したら、面白いでしょう。演劇と違うのは脚本化せず、原作を大切に舞台化すること。
文学好きなあなた、一緒に舞台を創りませんか。スタッフとして活動して下さる方も大歓迎です。稽古見学に、お気軽にお越し下さい。お待ちしております。



日韓演劇フェスティバル 参加公演に際して

朝鮮半島が南北に分断されて後の、この60年の間になんと多くのことがおき、なんと多くの命が無残に失われたことか、知れば知るほど暗く重いものが心をおおい、言葉を失くしてしまいます。

そのなかで生きること、闘うことに賭けた人の強さを思うとき「志」という言葉が思い浮かびました。池明親氏は「彼らの戦いは政治的暴力に向かったの絶えざる戦いであつた。(略)暗い歴史であつたがゆえに何よりも恨(ハン)に悶える心を鎮めるために努めねばならなかつた」と記されました。

知らなかつた歴史の教えられなかつた歴史の重さと激しさと、哀しさに押しつぶされそうになりながら、このパンフレットを作成しました。'94年夏の韓国旅行中、河回村で出会つた当時81歳の柳瑞夏氏が書いて下さつた書「儘人事待天命」(人事を尽くして天命を待つ)に励まされ今日を迎えることができました。これからもっと知らねばならぬことが、見なければならぬことが山積みされています。

今回の公演が、何度も訪ねた朝鮮半島との真実の出会いとなるようにこれからも学んでいきたいと思ひます。

寒い時期にご来場下さいまして、まことにありがとうございます。皆様の温かいお気持ちを胸に、ただただ一生懸命努めます。

最後までご覧下さいますようお願い申し上げます。

演出 秋山 太加

秘密の花園

原作……金 倫 永
(キム・ユンヨン)

訳 語……金 京 子
(キム・キョンジャ)

西村 麻里

上演台本……秋山 太加

■キャスト

カン・チョンア 秋山 太加

叔母・叔父 福 嶋 左知子
母の友人

母……太田 淑子

祖母・父……田中 章恵
チエヨン

友情出演
チャオルス……楠田 獅子丸
(劇団 華の森)

■スタッフ

構成・演出……秋山 太加

舞台監督……佐野 泰宏
(CQ)

音 響……西角 秀紀
(街ムーブファクトリー)

照 明……牟田 耕一郎
(劇団マスコア)

宣伝デザイン……桂 瑞子

記 録……小島 知光

プロンプター……坂田 昌子

制 作……丹原 祐子
(office P-T企画)

協 力……杉本レイコ
M I Y A

印 刷……宣 光 社

稽古場協力
(街ムーブファクトリー)

企画・制作
朗読劇団・朗読GEN

作品解説

この小説は1998年「第1回創比新人小説賞」の佳作として「創作と批評」102号(1998年冬号)に掲載され、その後著者の初小説集『ルイ・ヴィトン』(2002年)に収められている。著者は1997年の大統領選挙をめぐる湧き上がった様々な見解を小学3年生の天才少女の目を通して描いている。80年代の学生運動に関わり、投獄された経験を持つ叔母の日常や、心情からその時代の韓国の政治や社会の実情がにじみ出る。大統領選挙をめぐる家族それぞれが異なる政治的傾向を見せる。

与党側の選挙運動員として走り回る祖母、野党の金大中を応援する父母、叔父は民衆党候補者の応援に必死である。普段は死んだように日々を送り、何事にも関心を示さない叔母ですら、選挙が近づくとテレビ画面に釘付けになる。いやおうなく政治に巻きこまれてしまうのが民衆である。社会と隔絶して生きていくことなどできない私たちは自分をどうやって守っていくのか、闘っていくのか、改めて問い直されている気がする小説である。

民主主義は血を吸って育つ

1971年始め、大統領候補になった金大中は渡米しベトナム戦争を批判したフルブライト上院議員にも会う。

「軍事独裁の国で政権交代が可能だと思って立候補するのか」と尋ねられ、アメリカ独立戦争の時の、トーマス・ジェファソンの言葉「民主主義はその国民の血と涙で勝ち取るものだ。その国民の血を吸って民主主義という木は大きくなるものだ。」をあげ、私たちがこのような努力を重ねていけばいつか必ず自由と民主主義を獲得できると答えた。

あらすじ

天才少女チョンアがただ一人の親友として慕っている叔母は80年代の反政府運動に関わり何度も牢獄に入った後、何の希望もなく過去にとらわれて生きている。祖母、父母、叔父は心配しながら見守っている。大統領選挙の投票日、叔母は昔の夜学の同僚に出会う。再会した二人は……。

原作：金 倫永(キム・ユンヨン)

1971年、ソウル生まれ。梨花女子大学社会学科卒、成均館大学大学院史学科修了。2002年文芸振興院創作基金受賞。初の小説賞『ルイ・ヴィトン』を出す。

翻訳：金 京子(キム・キョンジャ)

1960年、ソウル生まれ。1992年来日、韓国語講師、翻訳家として活動している。現大谷大学国際文化学科講師。日本語訳書に『民族文化と民衆』『ナムムの家のハルモニたち』韓国語訳書に『沖縄のはなし』『獄中19年』『性の歴史学』など。

一口メモ

5.18特別法

1995年12月に成立。この特別法は韓国の国会が初めて過去と正面から向き合おうとした立法でもあった。金泳三は政権発足直後に「光州での流血は民主主義の礎であり、現政府はその延長線上に立つ民主政府」と5.18特別談話を発表した。だが光州事件の見直しは新軍部(全斗煥時代の軍部)の過去の汚点を明るみに出すことであり、新軍部との妥協によって生まれた政権にとっては踏み込みにくい領域であった。未解明の問題も残ったのである。

死線を越えて

1973年8月のあの衝撃的な拉致事件を、覚えておられる方も多いだろう。1971年(朴正熙時代)交通事故に見せかけて殺されかけたこともあり、全斗煥時代に死刑判決も受けた。「その波乱に富む人生はそのまま朝鮮民族が背負わねばならなかった歴史の縮図である。」(「わたしの自叙伝」より)

分断された国

1945年、日本が無条件降伏を受け入れ、朝鮮半島が旧本の植民地支配から解放された日、20歳の金大中は「万歳」を叫び走り回った。しかし朝鮮半島の独立はすぐには実現しなかった。戦後処理をめぐるアメリカとソ連は対立したが「信託統治」をしようとする点で一致していた。しかし、これに反対する勢力が「南」だけの単独政府樹立をすすめ、米ソの対立も力の奪い合いから深まる中、1948年初代大統領、李承晩が誕生する。

南北の政治協商に望みを持っていた偉大な愛国者、金九が殺害され、その後分断国家が今日まで続くことになった。

木浦の青春……政治家への道

港町木浦(地図参照)から34キロ離れた荷衣島に生まれる。8歳頃から新聞の第1面をまず読んだという。父親も政治に関心が高く大阪で労働争議に参加している人が訪ねてきて朝鮮人の悲惨な生活状態や、思想犯担当の刑事が来て、取り調べで殴られたと話すのも聞いたという。その頃は日本の植民地統治下だが、父親は幼い彼に民族の歴史をよく話した。

また島の土地が知らないうちに日本人のものになっていてその闘争に父親は関わっていた。そのため一家は窮乏し、母親の必死の働きで生計をまかっていた。

た。彼が政治家になったのには母の正邪善悪をはっきりさせる気質を受け継いだこと、父の農民運動や反日的教訓を聞いて育ったことが影響したようだ。

一家は大中の教育のために島の家も土地も売り払って木浦に移った。1950年朝鮮戦争が勃発。金大中はソウルにいた。

李大統領や政府放送はソウルを死守すると伝えたがそれは事実を市民から隠すための嘘であった。暴撃のなか辿り着いた木浦でミラのようになった母が待っていた。人民共和國軍に捕らえられるが処刑寸前助かる。

政治への不信から

朝鮮戦争が開始時、大統領はじめ指導者は国民に嘘について自分たちは逃げ出した。取り残され命を守るために仕方なく人民共和國軍に若干の協力をした人たちは戦後、処罰したことに憤りを感じた彼は国民を欺くような政治では国民の命や財産や幸福は守られない、民族の悲劇も政治の問題だと考え、政治の世界に入ろうと考えるようになる。その後何度も選挙に出て落選し、投獄され、自宅軟禁され、死刑判決を受けながらも不屈の闘志で生き抜きついに1997年大統領に選出された。

一口メモ

拉致事件

1972年10月に朴政権は戒厳令を宣布、国会解散、政党・政治活動の禁止、大学の閉鎖に及んだ。維新憲法を確定し、永久に大統領の地位を得ようとした。

金大中はKCIAに常に見張られ、行動を妨害されていた。73年8月8日東京グランドパレスホテルから拉致され、船に乗せられ、海中に投げ込まれる寸前に助かる。その後自宅軟禁となり、それは14年間続いた。

今だに「真相究明」はされていない。



軍事クーデターで政権奪取！—朴正熙

パク・チョンヒ

朴正熙 (1917~1979)

1961年、5、16軍事クーデターを指揮。63年第5代大統領に就任。67年第6代、70年第7代に就任。72年永久執権を企て個人独裁体制「10月維新」を断行。暴圧的な方法によって、反政府民主勢力を弾圧した。78年第9代大統領に就任。しかし、79年釜馬民衆抗争をきっかけに18年間の軍事独裁に対する民衆の不满、怒りが爆発し、政権打倒の声が全国に拡大して体制危機が深まる中10月26日に中央情報部長・金載圭に射殺された。

暗殺者、金載圭 (キム・ジエギユ)

同郷の朴正熙に引き立てられ、76年には朴大統領に次ぐ権力者として情報部長官に昇りつめていた。71年の大統領選挙のとき、金大中への圧倒的な民衆の支持を知った朴正熙に「お前が私を救え」と言われ「今度もあなたを大統領につくら」と応えた。後のKCIAの部長で金載圭の弟が雑誌の対談で語っていた。(金大中「わたしの自叙伝」より)

露骨な不正開票などあらゆる手段を弄して凄まじい不正選挙をおこない当選させたが、それは次の出馬はないという朴大統領の約束を信じたからだった。しかし、72年維新憲法を公布した朴氏は反体制の人々への弾圧を強めた。74年3月の「民青学連事件」では関連して調査を受けた人は1204名、14名に死刑が求刑された。反政府側の「知識人・言論人・宗教人へのアピール」の最後は「卑怯者よ、その名は傍観者である」という一節で結ばれた。

金相鎭 (キム・サンジン) の死

75年4月高麗大学学生2000名が警察と対峙している時、大統領緊急措置が発動、大学は休校、一切の集会禁止、違反者は懲役を科すことされた。完全武装した軍隊がキャンパスに入って来た。すでに、21の大学が休校。その中でソウル大学で維新撤廃、民主回復を叫んで、割腹自殺をした学生がいた。自死の報道は禁じられていたが、口伝や秘書のチラシで知れ渡った。



78年、全国至る所でデモが起こり、12月国会議員選挙では可能な限りの不正行為にも関わらず野党が与党を上回った。

79年民主化運動の高まりの中、釜山大学のデモは5000名になり、警察は催涙弾の無差別発射を始めた。しかし馬山市に波及した動きはもはや軍力を動員して大虐殺をしてもおさまらない状況となっていた。事態を正確に把握していた金載圭は朴大統領を射殺、皮肉にも独裁者は最も信頼していた部下の銃弾にたおれた。「野獣の心で維新の心臓を打ち抜く」(事件後の金載圭の発言) 覚悟の凶行だった。

一口メモ

地域葛藤

韓国の地域葛藤は湖南、嶺南の対立をさし、歴史を褪げれば新羅、百済の時代に辿り着く。その感情を政治の世界に利用したのが朴正熙である。慶尚道天下と言われた朴正熙時代には嶺南への優遇策がとられ、政府要人も軍も慶尚道出身者を抜擢し、大企業のオーナーも嶺南出身が多く、湖南出身はわずかである。住民所得も格差が激しく、冷遇された全羅道と、慶尚道の人々の間に深い溝をつくり、国民を分断することで廷命を回ったのである。71年の大統領選では全羅南道出身の金大中のソウル遊説に史上初の30万人大群衆が集結したこと、急機感を抱き、逆差別を繰ることで、独裁的民主

民主化への弾圧—光州事件の悲劇

抵抗の都市—光州

1929. 11. 3に光州で起こった抗日学生運動は日本人学生が朝鮮人女子学生を侮辱したことを発端とする。報道が偏向であると怒った学生達はデモに突入。この後全国に広がって参加学生数5万4千名と言われる。11月3日は「学生の日」に制定されている。

ソウルの春

1979年10. 26の朴正熙暗殺事件から1980年5. 17非常戒厳令施行までの政治的な過渡期を示す言葉で「プラハの春」からとられた。民主化への希望の時期だったがそれは余りに短かった。

70年代に入って、アメリカが人権問題について批判を強め、それに頼って野党が力を回復し始めると、維新体制の結びは経済の下降によって更に目立ちはじめる。劣悪な労働に消耗しきって焼身自殺をした縫製工場の若者、「嫁に行っても3年と生きられない」と言われた女工たち、労働争議は激烈な展開を見せ始め、5. 17クーデターまでに897件の労働争議が発生した。苛立った朴大統領が疾走し始めた時、側近に射殺され、「最悪の流血事態を回避するためにやった」と金載圭は後に語るが、その後遥かに凄惨な出来事が起こってしまう。

「ああ、光州よ、わが国の十字架よ」—金俊泰 詩より

5. 17戒厳令布告、10日間に及ぶ、全羅南道光州で多くの市民が手当たり次第殺された。全斗煥の軍部勢力が民主化を要求するデモを、空挺部隊を投入して鎮圧した。学生達は殴打され、服を剥ぎ取られ、トラックに押し込まれた。死者民間人168人、軍人23人、警察4人。負傷者4782人、行方不明406人。事件の詳細はこの後、移り聞かれたキキが、

短かったソウルの春—全斗煥

チヨンドウファン

全斗煥 (1931~)

慶尚南道出身。朴正熙が射殺された後、政治の表舞台に出てきたのは、維新时期に朴大統領に引き立てられた全斗煥であった。80年5月の民主化運動「光州事件」を捻りつぶし、金大中ら26人を逮捕、政治活動禁止、言論、出版、放送の事前検閲、大学の休校を盛り込んだ戒厳令布告を発表した。(後に死刑を宣告された金大中は国際世論の圧力で執行を免れ海外に亡命した。)

81年大統領となり、6年7ヶ月に亘る軍部の強権支配を続ける。「社会悪一掃」として6万人を連行。内4万人は軍隊での過酷な訓練をうけ、虐待で51名が死亡、その時の後遺症に苦しむ人が少なくない。このやり方は朴正熙を踏襲したものだが、それよりはるかに大規模で過酷であった。

74年の維新体制時抵抗しながらも屈服した「朝鮮日報」など言論の体質改善をすすめ反政府言論人700人余りを解職させた。そして172の定期刊行物を廃刊措置にした。テレビは「今日は大統領閣下におかれましては・・・」に始まり、大統領のその日の日課を知らせた。当時これを人々は「テン全ニュース」(テンは時報の擬声語)と呼んで皮肉った。

韓国歴代大統領

1948~60 李承晩 (イソンマン)	1986~93 盧泰愚 (ノ・テウ)
1960~61 尹潽善 (ユン・ボンソ)	1993~98 金泳三 (キム・ヨンサム)
1963~79 朴正熙 (パク・チョンヒ)	1998~03 金大中 (キム・ダグジュン)
1979~80 崔圭夏 (チュ・ギュハ)	2003~08 盧武鉉 (ノム・ヒョク)
1980~88 全斗煥 (チョン・ドゥファン)	2008~12 李明博 (イ・ミョンバク)

【参考図書】	素人社 岩波新書 「秘密の花園」
	池明根 「韓国民主化への道」
	文京珠 「韓国現代史」
日本放送出版協会	金大中 「わたしの自叙伝」
角川学芸出版	康宗憲 「死闘台から教壇へ」
ホルブ	「世界伝記大辞典」
日本評論社	「朝鮮韓国近・現代史事典」
岩波ジュニア新書	「韓国の若者を知りたい」
図書刊行会	「マンガ・ものがたり韓国中」